

令和 8 年 5 月臨時記者懇談会

日時：令和 8 年 5 月 15 日（金）午後 5 時 15 分～

場所：議長執務室

- 議長：本日は、お忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。
ます。

今週水曜日（5/13）に佐賀県で開催されました、令和 8 年度第 1 回九州各県議会議長会議に九州各県議会議長会の会長として参加しました。九州各県議会議長会では、提出する議案については、

- （１）広く九州各県議会の意見を披瀝し、その実現を期そうとするもの
- （２）行財政制度の改革上の基本的なもの
- （３）法令の制定改廃又は重要な行政上若しくは予算上の措置を要するもの
- （４）時局的なもので重要度の高いもの

といった要件に合致する議案を提出することになっております。

今回、九州各県より 24 議案の提出があり、沖縄県も会長県提出 1 議案（「高規格道路の整備促進と道路予算の確保」）、沖縄県提出 3 議案（「米軍基地対策等」「尖閣諸島を巡る問題」「中国による弾道ミサイル発射」いずれも継続議案）を提出し、全会一致で承認されたところです。

今回承認された 24 議案は今後、7 月 22 日に開催予定の全国都道府県議会議長会定例総会に九州ブロックから提出される予定です。

説明は以上となります。

この九州議長会の結果についてはまだ各会派へお伝えできていない段階ですが、来週以降は県外公務が多く今月いっぱいには身動きが取りづらいため、本日急ぎ懇談の場を設けさせていただきました。この内容をもとに、6 月定例会の代表質問や一般質問において、基地問題を含めた活発な議論が行われることを期待しています。特に「米軍基地対策等（第 19 号議案）」に関しては、SACO（沖縄に関する特別行動委員会）合意に基づ

く嘉手納飛行場でのパラシュート降下訓練の禁止や、不発弾対策などが盛り込まれています。米軍関係の課題については日米安保条約の枠組みがありますが、それを踏まえた上でも、我々沖縄県としては被害の現状を真摯に説明していくしかありません。そして、これは沖縄単独の問題ではなく、「九州全体として全国へ提案していく」という了解が得られたことが、今回の九州議長会における一番の成果であると考えております。かつては安保条約の観点からこうした議案の集約が難しい時期もありましたが、今回は事務方が丁寧に事前調整を行ってくれたおかげで、全会一致の承認に至ったことに深く感謝しております。

2 質疑応答

○ 記者：日米安保条約の問題があるからと議案から外されたというのはいつ頃のことでしょうか。

○ 議長：「外された」というよりは、要するに全会一致にならなかったということです。通常、交通渋滞対策や農林水産などの議題は他県とも共通するため一本化しやすいのです。ご承知のとおり、九州各県の議長や幹部の多くが自民党所属であることもあり、全会一致が難しい文章はそぐわないという空気になりがちですが、今回は事務方が事前にしっかりと調整を行ってくれたため、全会一致で集約することができました。

なお、全国議長会での例を挙げますと、厚生年金への地方議会議員の加入を求める文言を巡って、全国では「身を切る改革」の観点から意見が分かれた事例などもあります。現在、市町村からも地方議員への厚生年金加入への要望が上がっており、これについては全国議長会で政府等へ要請を行っています。

今回の基地関係（第 19 号議案）の主な変更点としては、中央の項目に「米軍人・軍属等に対し、規律を維持するための取り組みを強化し」という文言を新たに盛り込みました。これは、

昨年 12 月 22 日に沖縄県議会で「米軍人・軍属に対する綱紀粛正の徹底を求める意見書」が全会一致で可決されたことを反映したものです。また、項目 4 番の「主権国家としての立場を踏まえて」という部分も同意見書を参考に修正し、項目 5 番では普天間飛行場の早期運用停止と危険性の除去、基地返還区域の整理縮小などを盛り込んでいます。当日の会議では、上原副議長がタイトルと概要の説明を行い、全会一致で採択されました。

- 記者：今回、九州ブロックから提出された議案が全国で採択された場合、関係省庁や総理大臣等への要請行動は行われますか。
- 議長：はい、例年 10 月から 11 月頃に各県の議長が揃って上京し、要請行動を行っています。前年度も 11 月に各省庁へ直接出向き、要望書を提出いたしました。
- 記者：旧海軍駐機場の問題など、現在いろいろと課題があると思いますが、これについてはどのようにお考えですか。
- 議長：地元の町長も「約束が守られていない」と大変憤っており、政府へ直接要請を行っています。駐機場については、当時の司令官との間で「使用しない」という合意があったにもかかわらず、司令官が変わるたびに運用の解釈が変更されては、地元住民はたまりません。移設された代替施設があるのですから、そちらで運用すべきだと考えます。なお、この件は今回の提出議案には含まれていません。議案はあくまで県議会で全会一致となった意見書等をベースに作成しているためです。もしこの問題が単独で米軍基地関係特別委員会等で審議され、意見書として上がっていれば、議案化されていた可能性はあります。
- 記者：沖縄県議会で全会一致となった課題を、九州全体で連携して取り組むことにはどのような意味がありますか。

- 議長：例えば鉄軌道や新幹線といったインフラ整備は、同じ九州内でも路線が通っている地域と通っていない地域があり、また地元負担の割合なども異なるため、私が会長を務める議長会の中でも委員会のように分かれて議論が行われています。それほど意見が集約しにくいものであり、文書全体でいえば約 28 項目に及びます。

そうした中で、沖縄は島しょ県だから仕方がないと片付けるのではなく、九州全体の思いとして理解してほしいと働きかけた結果、九州の皆様が理解を示してくださり、基地問題の議案についても全会一致で共に要請行動をしてくれるということには大変感謝しています。私自身、九州議長会の会長になって本当によかったと感じています。沖縄が単独で動くよりも、九州が一つになって動く方が、国に対する効果もより高まると考えています。

また、地域公共交通の維持や、特に離島振興対策については、沖縄県よりも長崎県の方が離島を多く抱えています。そのため、鹿児島県から提出されている離島振興対策に関する内容を尊重し、決して沖縄県を軽視しているわけではなく、内容が重複する項目については鹿児島県側に委ね、沖縄県からは出さないといった調整を事務方が事前に行っています。漂着ごみ対策や、畜産振興なども同様です。我々としても 4 項目だけでなく 10 項目ほど提出したかったのですが、他県との重複を避けて効果を高めるために調整した結果です。

- 記者：道路整備の項目についてですが、「那覇空港自動車道の整備促進」という項目があります。これは高速道路のことだと思いますが、予算が増額されるという意味合いでよろしいでしょうか。
- 議長：予算の増額というよりも「早期実現」を求めるものです。現在も整備は進められていますが、やはり高速道路と南部エリアが繋がらないと交通渋滞の根本的な解消にはなりません。それと

本来であれば西海岸道路も含め、早めに整備を行わないと渋滞緩和につながりません。観光客もどんどん増えていますから、早期実現に向けて国へ働きかけていきます。国も毎年予算を確保してくれています。

- 記者：見通しとしては、どれくらいになりそうですか。
 - 議長：南部方面の整備は結構進んでいます。実際はそれと西海岸道路などを含めて進められています。道路整備というのは、私が思うに 30 年近くかかっているものもありますし、県道 74 号線などは 40 年ほどかかっています。どうしても時間がかかるものなのです。
 - 記者：本日、辺野古の事故現場へ行かれたと思いますが、改めて現場をご覧になって感じられたことがあればお聞かせください。
 - 議長：現地でも少しコメントいたしましたが、正直に申し上げますと、この海岸での事故が発生した直後に現場へ行って調査を行うべきかとも考えました。しかし当時は、地元の区長さんや海上保安庁、学校関係者の方々も対応に追われて大変な状況にありました。あってはならない事故が発生し、2 名の方が亡くなられるという極めて重大な事態でしたので、この 1 週間ほどは海上保安庁や警察の皆様によるしっかりとした調査を優先すべきだと判断しました。いきなり現地に赴いてもかえってご迷惑になりますので、状況が落ち着いてから、四十九日を迎えるタイミングで訪問することを事前に決めておりました。
- また、私はインターネットなどはあまり見ないのですが、インターネット上での誹謗中傷や、「政治利用されているのではないか」といった意見もあると聞いております。そのためこれまでコメントを控えておりました。まずは徹底的な原因究明と再発防止を行い、ご遺族やご親戚の皆様に対してどのように説明していくかが重要であり、現地では本当に言葉が出ません

でした。現地でも十分な説明ができなかった部分もありますが、ご家族にとっては本当に耐え難いお気持ちであると思いますし、ある意味「こんなはずではなかった」と思われているはずです。重要なのは今後どう対応していくかです。私が不用意に発言することで混乱を招いてはいけませんのでコメントを控えておりましたが、できるだけ私は海上保安庁からの正確な説明と報告をきちんと受けた上で行動すべきだと考えています。様々な情報に惑わされることなく、しっかりとした情報が得られるまでは慎重に対応したいと思っております。

- 記者：ご遺族がウェブ上で公開されているノートは読まれましたか。
- 議長：拝見いたしました。本当に切実な思いが綴られていると感じました。尊い命が失われたことに対し、静かに喪に服したいと思っております。この問題に対してどのような意見を持つかは自由ですが、インターネットでの情報発信にあたっては、各々が責任を持って行うべきであると考えています。

以上